アウトリーチ活動報告書

作成日：2024 年 9 月 30 日

北海道大学 大学院保健科学研究院 病態解析学分野 村山 迪史

2024 年度研究助成＜奨励＞の支援をいただき、北海道大学大学院保健科学研究院において、札幌西高等学校の生徒に対してアウトリーチ活動を実施いたしましたので報告いたします。

・実施名：札幌西高等学校「北海道大学研究室訪問」超音波でからだの中をみる
・受領者氏名：村山 迪史
・所属機関名：北海道大学 大学院保健科学研究院 病態解析学分野 心血管エコー研究室
・役職：助教
・対象：札幌西高等学校の高校生 4 名および札幌西高等学校の教員 1 名
・日時：2024 年 9 月 30 日 16 時 30 分～18 時 00 分
・場所：北海道大学 大学院保健科学研究院 心血管エコー研究室ならびに第二実習室

令和 6 年 9 月 30 日に、母校である札幌西高等学校の高校生を対象として、「超音波でからだの中をみる」と題した模擬講義と実習を北海道大学大学院保健科学研究院で実施いたしました。かつて医師が担ってきた超音波（エコー）検査は、現在、そのほとんどを臨床検査技師を中心とする技師（ソノグラファー）が担うようになってきました。ソノグラファーは、検査手技に習熟することはもちろん、疾患や病態についての知識に基づき、個々例に応じて自ら検査を組み立てる必要があります。このため、エコー検査の検者依存性は他の検査に比べると大きいという問題がありますが、同時にやりがいのある検査であり、日常診療で重要な役割を果たしています。北大では超音波検査についてどのようなことを学ぶのか、また、ソノグラファーとして働く際にエコー検査に関するどのような知識や技術が必要になるのかを高校生に伝えたいと考えて企画しました。

心血管エコー研究室において実施した模擬講義では、エコーとは何か、エコーでからだの中をみるとどう見えるか、エコーを使った研究にはどのようなものがあるか、という内容に関して解説しました。実習室では、高校生たちに実際に超音波診断装置を使ってもらい、心エコー、腹部エコー、甲状腺エコーを体験してもらいました。模擬講義と検査体験後には、参加者からエコー検査を担当するソノグラファーは検査のみならず診断も行っているのか、検者による検査精度の差異はどの程度あるのか、どうして超音波を使った研究に興味を持ったのかといった超音波検査や超音波医学研究に関する質問だけでなく、高校卒業後の進路や大学生活に関する多くの質問を頂きました。このアウトリーチ活動を通じて、参加してくれた高校生たちにエコー検査の楽しさと臨床的意義を伝えることができたのではないかと考えています。また、大学での実習や研究の一端を体験してもらうことで、進路選択の一助となることを期待しています。

最後になりますが、本研究ならびに本アウトリーチ活動を支援してくださった公益財団秋山記念生命科学振興財団に厚く御礼申し上げます。ご支援いただき誠にありがとうございました。